

そらんぽへ行こう

☎ 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

学習支援展示

「四日市空襲と戦時下の暮らし ～いのちをつないだ食事～」

昨今、体験者の高齢化などで戦争の実態を伝えていくことが困難となるなか、博物館では毎年、四日市空襲や戦時下の暮らしを紹介し、戦争の恐ろしさや平和への理解を深める展示を行っています。

今年の展示は、戦時下の「食」に焦点を当て、配給切符や火なしコンロ、簡易精米器など、当時の食卓を支えた資料のほか、当時食べられていた野草なども紹介しています。

当館学芸員が空襲を経験した人の協力を得て再現した「当時の四日市塩浜の食事」では、



「当時の四日市塩浜の食事」の再現

玄米を焙烙^{ほうろく}で煎り、多めの水に浸して炊くことでかさが増す「楠公飯^{なんこうめし}」や焼きイワシ、生の野草ハコベラの献立が並びます。

四日市空襲展は、8月30日(日)まで博物館3階のロビーおよび展覧処「白里亭」(常設展「時空街道」内)、2階常設展一部にて観覧無料で開催しています。

本展を通して、いま一度、平和と命の尊さを感じてください。

※素焼きで作られた平たい土鍋

市制130年、その先へ Vol.2

☎ 市制施行130周年記念事業推進室 (TEL) 337-8605 (FAX) 354-8315

市制施行当時の四日市市

明治30(1897)年8月1日に全国で45番目に市制が施行された四日市市。令和9(2027)年8月1日には市制施行130周年を迎えます。

旧四日市町から四日市市へと変わった市制施行当時、人口は約2万5千人(現在は約30万5千人)、面積は9.65km²(現在は206.50km²)でした。

市制施行に先立つ明治17(1884)年、稲葉三右衛門が私財を投じて近代的な修繕を行った四日市港が完成しました。この一大事業を契機にさまざまな近代産業が息吹き、明治32(1899)年には関西鉄道(現在のJR関西本線)の名古屋・大阪間が全線開通しまし



明治期の四日市港(所蔵:四日市市立博物館)

た。こうして陸海の交通に恵まれた四日市市は、東海道の宿場町として栄えた商業のにぎわいを礎に、日本を代表する「工業都市」へと目覚ましい発展を遂げていくことになります。

この130年という長い歩みは、幾多の困難を乗り越えながら、このまちを愛し、築き上げてきた先人たちの知恵と努力の結晶です。四日市市が、この先もずっと誇り高く、魅力にあふれるまちであり続けるために、来年の大きな節目である130周年を一緒に盛り上げていきましょう。

市制施行130周年記念事業キャッチコピー

130年、その先へ 未来を拓く四日市